

ルートの説明

1. 本学1号館前

学徒出陣を見送り、1945（昭和20）年の東京大空襲の記憶が染み、現存最古の校舎。



2. 真田濠



3. 喰違見附



4. 清水谷公園

帝国日本の基礎をつくった大久保利通への襲撃と、戦争の影を感じることができる、静かな追悼の地。



5. 赤坂プリンス・クラシックハウス

李王家の邸宅として建てられた美しい建造物が、拡大する帝国の目論見を今に伝える。



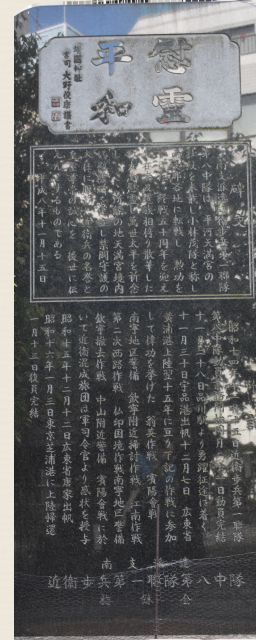
6. 平河天満宮

(*表紙の写真)

コラム：平河天満宮にみる 信仰と平和の思索



平河天満宮の境内には、近衛歩兵第一連隊の戦歴が記され、標題に掲げられた「平和」への思いが静かに添えられている。靖國神社宮司が記したとされる碑文には、祈りと追悼、そしてかつての国家理念の影が映し出されている。境内には、江戸時代に遡る銅鳥居（千代田区指定文化財）も現存するが、空襲の機銃掃射による欠損がみられる。地域信仰と国家の歩みが交錯した時代が思い起こされるが、刻まれた戦争の痕跡、祈りや記憶が、今日の平和を考える手がかりとなるかもしれない。



詳しい情報を知りたい
方はこちらへ！



デザイン：亀山愛華、N・Y、成澤椿 / 協力：高谷英克 / 監修：北條勝貴

上智学院ソフィア・アーカイブズ
上智大学四谷キャンパス 中央図書館9階
ご利用を希望される際は
必ず事前にお問合せください。

TEL: 03-3238-3294

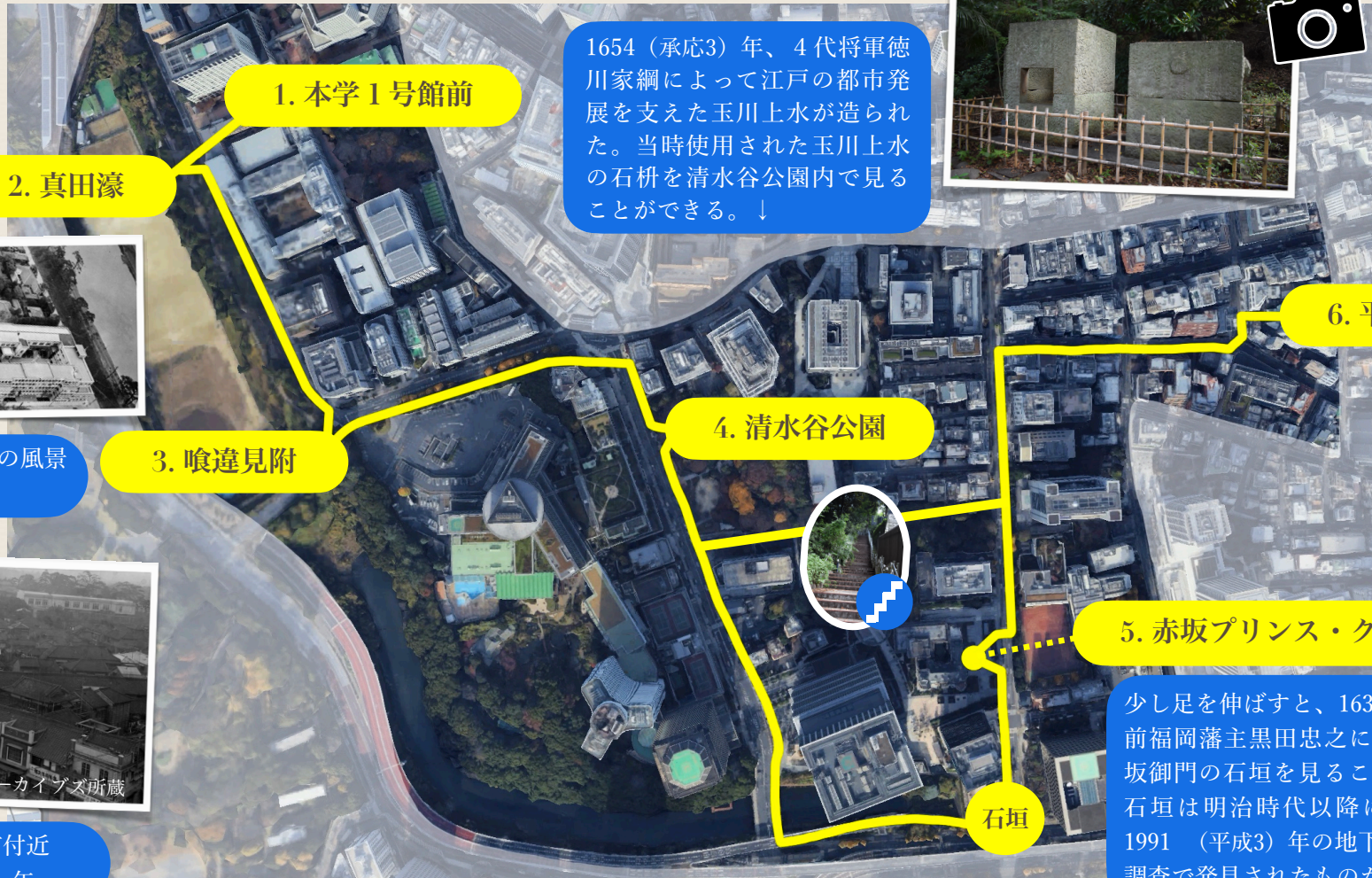
E-mail: sophia-archives-co@sophia.ac.jp

史層をひらく 四ツ谷と戦争 四ツ谷～平河町



所要時間：約60分

本学1号館前から、清水谷を越えて、平河天満宮に至るコースです。紀伊・尾張・彦根の3藩邸が隣接した江戸時代の痕跡を公園や庭園などに見ることができます。近代日本の進む方向を決定づける幾つかの事件が起こり、帝国の企図や空襲に関わる記憶が眠るこの地を、江戸から近代へと続く痕跡を掘り起こしながら歩いてみましょう。



1654（承応3）年、4代将軍徳川家綱によって江戸の都市発展を支えた玉川上水が造られた。当時使用された玉川上水の石柵を清水谷公園内で見ることができる。↓



本学1号館と真田濠の風景
1932（昭和7）年



麹町区紀尾井町付近
1924（大正13）年

3. 喰違見附

4. 清水谷公園

5. 赤坂プリンス・クラシックハウス

少し足を伸ばすと、1636（寛永13）年に筑前福岡藩主黒田忠之によって造られた赤坂御門の石垣を見ることができる。門や石垣は明治時代以降に撤去されたが、1991（平成3）年の地下鉄工事を伴う発掘調査で見えられたものが残されている。

石垣

おすすめ史跡スポットTOP3

2. 真田濠



正門を抜け、トンネルをくぐると、学生たちの活動するグラウンドが広がる。現在のような姿になったのは戦後のことで、それ以前は江戸城の外濠であり、一帯が水に浸る低地。現在は千代田区の災害時避難場所にも指定され、土手には松の木と、卒業生によって植えられた桜が並び、季節ごとに美しい景観を見せている。

3. 喰違見附

土手の食い違いを利用した江戸城の外門。江戸後期鈴木桃野の随筆『反古の裏書』に首吊り者の死霊「縊鬼」の出没が記される。成仏や転生を望む亡者が後任を見つけるため事故死等させ代替を求めることを鬼求代というが、縊鬼も例外ではない※。1874（明治7）年右大臣岩倉具視が赤坂仮御所での御前会議の帰途襲撃された赤坂喰違の変、占領期GHQのジープがカーブを曲がりきれず事故が起きている。※ 澤田瑞穂『鬼趣談議』『鬼求代』

6. 平河天満宮

学問の神を祀る境内には、狛犬や鳥居から空襲時の弾痕や焼け焦げ痕が確認できる。また、同地に宿衛し神紋を受けた近衛連隊の顕彰碑が建ち、当時の空気が戦後にまで続いていることを実感できる。戦禍の影響を受けた人々の祈りの場であると同時に、戦争と記憶の在り方に思いを巡らせる場となっている。

